

宝グループ・サステナビリティ・ポリシー

宝グループは「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じて、食生活や生活スタイル、ライフサイエンスにおける可能性を探求し、新たな価値を創造し続けることによって社会への貢献を果たしてきました。

穀物や水、微生物といった様々な自然の恩恵のもとで事業活動を行う当社グループにとって、豊かな自然環境が保たれることは、事業を継続するうえでの大前提です。また、食品や医療に関わる事業を営む企業として、安全・安心な製品・商品・サービスを提供することは最も重要なテーマであり、同時にアルコール関連問題をはじめとする様々な社会課題にも対処していく必要があります。

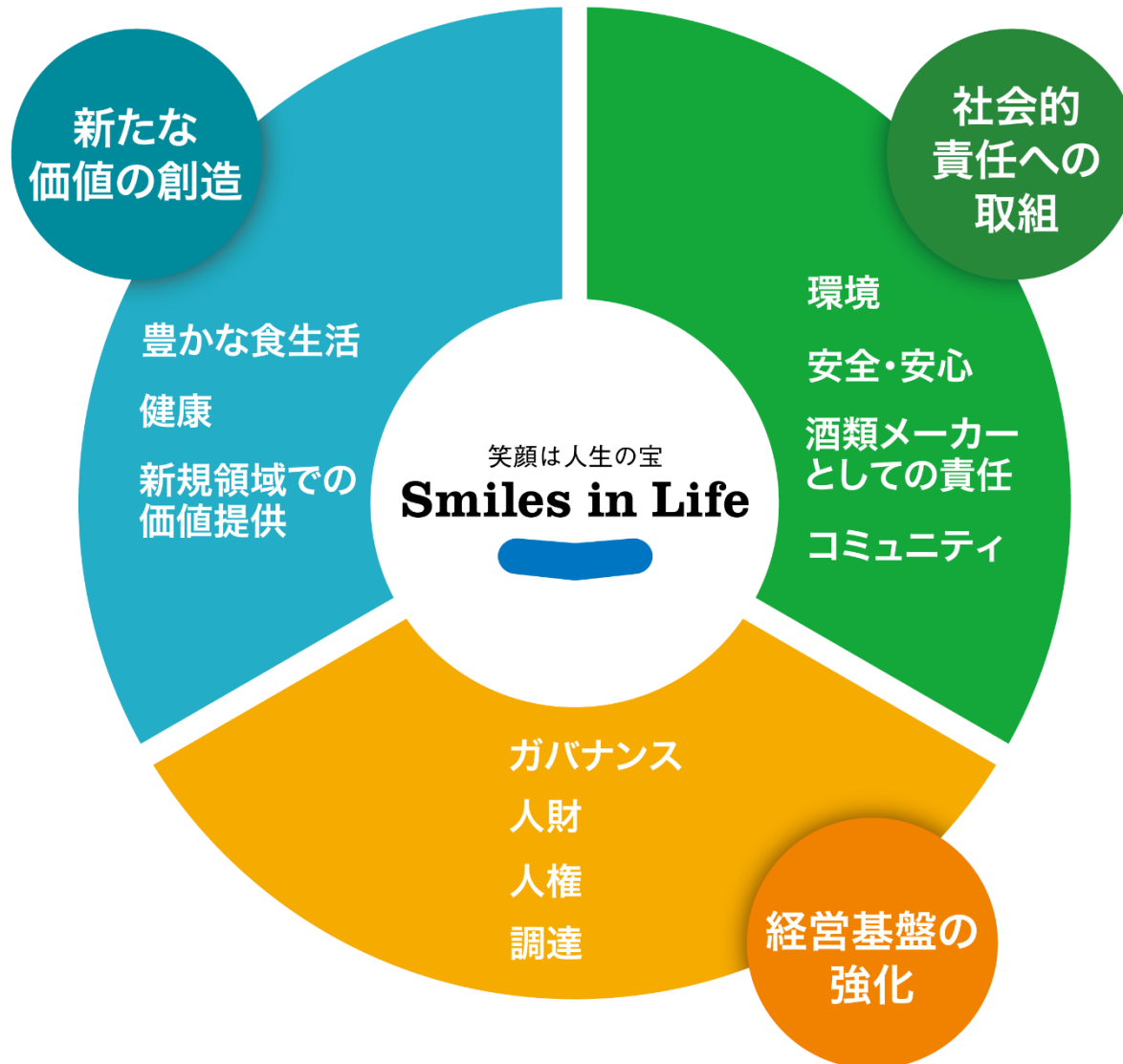
当社グループを取り巻く社会環境は急速に変化し、気候変動、生物多様性保全、資源保全、人権尊重といった多様な課題への対応が世界的規模で求められており、持続可能な社会づくりに向けた企業の責任はますます大きくなっています。

当社グループは、2050年のありたい姿を明確にするために、「宝グループ 長期Vision 2050」を策定し、Visionである「Smiles in Life～笑顔は人生の宝～」に込めた想いと、新たに目指していきたい未来をより具体的に表現しています。その中で、当社グループのありたい姿を「人々に豊かな食生活と健やかな人生を届け、バイオテクノロジーによる新たな価値創造で、世界中に笑顔を広げ続けている宝グループ」と掲げています。この姿を実現するには、様々な社会課題の解決にこれまで以上にチャレンジし続ける必要がある、という認識のもと「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」を公表しています。

「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」では、当社グループを取り巻く社会課題について、「安全・安心」をはじめとする11の重要課題（マテリアリティ）を取り上げ、各々についての取り組み方針を示しており、さらに、その方針に基づく具体的な「中長期目標」を策定しました。

当社グループは、これからも事業活動を通じた社会的価値の創造により、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループを目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

宝グループのマテリアリティ



環境

「宝グループ環境方針」

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

- 1. 環境に関連する法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。
- 2. 宝グループが行う事業活動の中、以下の項目について重点的に取り組みます。
 - ① 環境汚染の予防に努めます。
 - ② 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
 - ③ 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
 - ④ 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動を推進、支援します。
 - ⑤ 容器包装の3 Rへの対応など、環境に配慮した商品開発に努めます。
- 3. 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- 4. 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)気候変動	CO2排出量の削減	6安全な水とトイレを世界中に 7エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9産業と技術革新の基盤をつくろう
(2) 水	水資源の持続可能な利用	
(3)サーキュラーエコノミー	工場廃棄物の削減および再資源化の推進	
	フードロス削減への取り組み	11住み続けられるまちづくりを 12つくる責任つかう責任 13気候変動に具体的な対策を
(4)環境配慮型商品	環境に配慮した製品の開発	14海の豊かさを守ろう 15陸の豊かさを守ろう
	リサイクル啓発冊子の無償配布	
(5) 生物多様性	生態系や生物多様性を守る活動の推進	

安全・安心

宝グループは、食品や医療に関わる企業として、お客様に安心を感じて頂くことが重要であると考えています。将来にわたってお客様に信頼される企業グループであり続けるために、「宝グループ品質方針」を定め、取り組みを進めています。

「宝グループ品質方針」

私たちは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。」という宝グループの企業理念のもと、安全で安心していただける商品・サービスを世界中のお客様にお届けします。

- 1. 私たちは、お客様の声に真摯に耳を傾け、ご満足頂ける品質を追求します。
- 2. 私たちは、お客様に商品をお届けするまでの全てのプロセスにおいて、グループ一体となって品質保証活動に取り組みます。
- 3. 私たちは、関連する法令・自主基準を遵守します。
- 4. 私たちは、適切でわかり易い情報提供に努め、お客様の信頼にお応えします。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)宝酒造における安全・安心な品質の確保	食品安全マネジメントシステム（FSSC22000 国内自社工場6拠点）の維持	
	宝酒造の安全な商品づくり ・設計段階における関連法令・自主基準への適合性審査 ・安全性を確認した原料の安定調達 ・安全かつ安定した品質を作り込む製造ラインの維持・向上	
	お客様満足の追求（ISO10002）	
(2)タカラバイオグループにおける安全・安心な品質の確保	タカラバイオグループの品質マネジメントシステム（ISO9001ほか）の維持	
	GMP/GCTP（※）等の各種品質・製造・安全基準、第三者認証制度への適合・維持	
	品質重視の企業風土の醸成	
	製品情報の適切な提供	
(3)宝酒造インターナショナルグループにおける安全・安心な品質の確保	グローバルな品質保証体制構築に向けた取り組み ・海外の食品安全法規情報の把握と遵守 ・主な海外グループ会社の食品安全に関する認証取得推進	

※GMP：Good Manufacturing Practice、GCTP：Good Gene, Cellular, and Tissue-based Products Manufacturing Practice

酒類メーカーとしての責任

お酒は、古来より人間関係を円滑にするコミュニケーションツールとして大事な役割を果たしてきました。しかし、一方で、20歳未満の者の飲酒や飲酒運転など、いわゆるアルコール関連問題も引き起こしており、その功罪は相半ばすると言えます。

宝グループでは、アルコール関連問題に対して正面から取り組むことが、酒類を製造・販売する企業として重要な責任であると考え、「責任ある飲酒に関する基本方針」を定め、取り組みを進めています。

「責任ある飲酒に関する基本方針」

私たち宝グループは、酒類の製造・販売を行う企業として、アルコール関連問題への対応を重要な責任と考えており、さまざまな活動を通じて、健全な酒類文化の発展のために、社会に働きかけを行います。

- 適正飲酒を啓発するために、宝グループの従業員すべてが責任をもった行動をします。
- ウェブサイトや冊子による啓発、商品本体や広告での注意事項の表示などにより、アルコール依存症その他の多量飲酒、20歳未満の者の飲酒、妊産婦飲酒、飲酒運転などの問題解決に努めます。
- 業界団体、NPO等、様々なステークホルダーとともに、アルコール関連問題に取り組めます。
- WHOが採択した「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」を支持し、その達成に向けた取り組みを実施します。
- 酒類の製造・販売、広告活動を行うにあたり、関連法令、業界自主基準、宝グループコンプライアンス行動指針や社内規程を遵守します。
- 従業員に対する啓発活動を推進します。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)適正飲酒の啓発	ウェブサイトや冊子による啓発	
	従業員に対する啓発	
(2)責任あるマーケティングの実施	責任ある広告・販促活動の実施	
	責任ある商品表示の実施	
	新規広告媒体（SNS等）等の活用における配慮	
	20歳未満の者の飲酒防止	
(3)グローバルガイドラインの尊重	国連NDC政治宣言、WHOアルコール世界戦略の尊重	
(4)外部イニシアチブへの参加	公益法人等が行う適正飲酒の普及・啓発事業等への参画	

コミュニティ

宝グループは、地域社会とコミュニケーションをはかり、地域社会のニーズや課題を認識し、それらの解決に取り組むことで、地域社会の発展に貢献します。

社会が求めるニーズや課題には、「気候変動問題」などの地球規模の課題から地域の「ごみ問題」、「次世代を担う子どもたちへの教育」、「経済や文化の振興」、「大規模災害被災支援」など多岐にわたり、それらは時代とともに変化します。

私たちは、よき企業市民として、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、今、地域社会がどのような課題を抱え、何を求めているのかを知ること努めます。その結果、知り得たニーズや課題に対して、私たちが寄与できることを考え、実践に移すことで、地域社会の発展に貢献します。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)子どもたちへの教育	環境教育や食育等を目的としたイベントの開催、 地域の小学校等への出前授業の実施	 
(2)地域社会・文化振興への貢献	地域の清掃活動等への参加、地域社会への支援	
(3)地域経済の振興	地域密着型商品の継続的育成	
	未利用資源の有効活用による地域経済の振興	

豊かな食生活

宝グループは、グローバル和酒No1企業としてのプレゼンスと、海外での日本食材卸ネットワークを活かして、和酒・日本食の価値や魅力を高め、人と人の繋がりにあふれた豊かな食生活を世界中にお届けします。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)和酒・日本食を通じた世界中の人々への食の豊かさの提供	<和酒の魅力や新たな価値の発信・提供> 新商品による需要活性化、市場開発 WEBサイト、SNSを活用した情報発信 和酒の魅力・価値の海外への浸透	
	<日本食の魅力や新たな価値の発信・提供> 販売先と連携した調味料セミナー、クッキングラボ等の開催 外部イニシアチブへの参画 本みりん、料理用清酒、食品調味料を使用するレシピの発信 日本食文化の海外への浸透	
(2)お酒を通じたコミュニケーション創出と生活への潤い付与	お酒の楽しさや酒文化に関する情報発信	

健康

宝グループは、食品や医療に関わる企業として、製品やサービスを通じて人間の健康的な暮らしに貢献することを目指しています。

遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発や関連するサービスの提供や、健康に配慮した商品の開発など、人々が健康的な生活を継続して楽しむことのできる社会づくりに取り組んでまいります。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)世界のライフサイエンス研究と発展への支援	ライフサイエンス研究・産業の発展を幅広く支援	3 すべての人に健康と福祉を  9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
	ライフサイエンスコミュニティへの貢献	
(2)遺伝子解析技術の検査や診断への応用	遺伝子検査・診断用製品の提供	
(3)遺伝子治療発展への取り組み	アンメットメディカルニーズを満たす遺伝子治療関連技術の開発推進	
(4)健康配慮型商品の提供	ノンアルコール飲料ならびに糖質ゼロ、糖質オフ商品の開発	
	料理清酒の食塩ゼロ訴求	
	オーガニック食品等の提供	
	食物アレルギーに配慮した商品の開発	

新規領域での価値提供

宝グループは、人口増や気候変動による世界的な食料不足への懸念や、カーボンニュートラルへの社会的要請などが強まっている中、コアコンピタンスであるバイオテクノロジーをフル活用することで、「食」と「健康」という今までの領域を越えて社会に貢献できると考えています。国内外の多様なパートナーシップやネットワークの構築、社内外のアセットや知見の横断的な活用を進めながら、バイオテクノロジーを活用した新たな事業開発に経営資源を投下し、その実現を目指します。

テーマ	施策	関連するSDGs
(1)バイオテクノロジーによる新たな社会価値の提供	バイオテクノロジーをコアコンピタンスとした新たな事業の創出	9 産業と技術革新の基盤をつくろう  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を 

ガバナンス（1/2）

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

宝グループでは、長期Vision 2050で掲げる「ありたい姿」の実現には透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための適切なコーポレートガバナンス体制が必要であると考えており、また、信頼される企業グループであり続けるためには、株主、顧客、従業員、債権者、地域社会等のステークホルダーの立場を尊重し、適切なコミュニケーションに努めていくための体制が必要であるとも考えております。

上記の考え方のもと、「宝ホールディングス コーポレートガバナンスポリシー」に定める具体的方針に則って、適切なコーポレートガバナンス体制を構築・整備していくことで、グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)コーポレートガバナンスの推進	最適なコーポレートガバナンス体制の構築 ・取締役および取締役会 ・監査役および監査役会 ・独立役員の選任状況 ・役員報酬	
	最適なグループガバナンスの検討	

ガバナンス（2/2）

コンプライアンスの基本的な考え方

宝グループは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」という企業理念の実現をめざし、グループ共通の価値観である「TaKaRa Five Values」のもと、「宝グループコンプライアンス行動指針」に基づいて、常に誠実で公正な企業活動を行います。

- ① 国内外の法令を遵守するとともに、社会倫理を十分に認識し、社会人としての良識と責任を持って行動します。
- ② 自然環境への負荷の軽減に取り組み、生命の尊厳を大切に生命科学の発展に貢献します。
- ③ この行動指針に反してまで利益を追求することをせず、公正な競争を通じた利益追求をすることで、広く社会にとって有用な存在として持続的な事業活動を行います。
- ④ 就業規則を遵守し、就業規則に違反するような不正または不誠実な行為は行いません。
- ⑤ 常に公私のけじめをつけ、会社の資産・情報や業務上の権限・立場を利用しての個人的な利益は追求しません。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)コンプライアンスの推進	コンプライアンス推進体制の強化	
	コンプライアンス教育の実施	
	内部通報制度の適切な運用	
(2)リスク管理体制の強化	リスクマネジメント（平時のリスク管理）の推進	
	クライシスマネジメント（有事のリスク管理）の推進	

人財

「宝グループ人財方針」

宝グループでは、人材は経営上の重要な資本であり「財産」であるとの視点に立ち、「人財」と表現します。企業は社員一人ひとりが集まって成り立つ組織であり、人財の総合力が企業の持続的な成長と発展の源泉であるとの考えから、さらなる企業価値の向上とグループの成長を実現するためには、人財への投資により個人や組織の能力を最大限に引き出すことが欠かせないと考えています。

仕事のやりがいや働きがいのある職場、人を育む風土づくりを進めるとともに、グループの次世代を担う人財やグローバルな事業成長を実現する人財の育成、並びに多様な人財の活躍を実現してまいります。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)人財育成	次世代を担う人財育成策の実施	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を實現しよう 10 人や国の不平等をなくそう
	グローバルな事業成長を実現する人財（グローバル人財）の育成	
	宝グループ全体で社員が交流できる場や機会の創出	
(2)多様な人財の活躍推進	女性の活躍推進	
	シニア人財の活躍推進	
	障がい者雇用の推進	
(3)快適な職場環境とワークライフバランスの実現	職場の安全衛生確保	
	労働関係法令の遵守	
	長時間労働の防止	
	多様な働き方の推進	

人権

宝グループでは、すべてのステークホルダーの人権を尊重するため、「宝グループ人権方針」を定め、教育・研修をはじめ様々な取り組みを進めています。

「宝グループ 人権方針」

宝グループは、事業活動を通じ、従業員のみならず、取引先、お客様、地域社会など、さまざまなステークホルダーの人権に影響を及ぼす可能性を有していることを認識し、国際連合の「国際人権章典」及び国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」に規定された人権を尊重します。

本方針は宝グループすべての役員・従業員に適用されます。また、ビジネスパートナーに対しても、本方針への支持と遵守を求めます。

- ・ 事業活動を行うあらゆる国において、各国の法令・規制を遵守します。
- ・ あらゆるステークホルダーの多様性、人格、個性を尊重し、出生、国籍、人種、民族、信条、宗教、性別、年齢、障がいの有無、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、雇用形態、趣味、学歴などに基づく、非合理的なあらゆる差別の一切を認めません。
- ・ 結社の自由の権利と団体交渉の権利を支持します。違法な児童労働や強制労働は、国内外の労働環境においてこれを認めません。
- ・ 法令・規制や、本方針を含む社内規程の違反に関する通報窓口を社内および社外第三者機関に設置し、運営します。また、通報等の行為を理由とする通報者の不利益取扱は禁止します。
- ・ 従業員に対し人権方針を広く周知するとともに、継続した教育・研修を行っていきます。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)人権の尊重	新入社員研修や階層別研修での人権学習の実施	5ジェンダー平等を 実現しよう 10人や国の不平等 をなくそう
	多文化（多国籍文化）の理解・尊重	
	差別のない採用活動	
	ハラスメント防止への取り組み	
	個人情報・プライバシーの保護	
(2)人権デューデリジェンスの取り組み	人権デューデリジェンス・プロセスの実施	

調達

お客様に安全で安心な商品・サービスを継続して提供していくためには、ビジネスパートナーである調達先と持続的な取引を継続することが不可欠です。宝グループは、「宝グループ調達方針」に基づき、原材料等の安全性や品質の確保に加え、環境や人権、法・社会倫理の遵守といったサプライチェーン全体の社会的責任にも配慮することで、持続可能な調達の実現を目指しています。

「宝グループ調達方針」

- 1. 安全性と品質の確保
「宝グループ品質方針」に則り、高い安全性と品質の確保を目指した活動を推進します。
- 2. 環境への配慮
「宝グループ環境方針」に基づき、地球環境に配慮した活動に取り組みます。
- 3. 人権への配慮
「宝グループ人権方針」に則り、人権に配慮した活動に取り組みます。
- 4. 法・社会倫理の遵守
「宝グループ コンプライアンス行動指針」に則り、法・社会倫理を遵守します。
調達先に接待・贈答を要請することはなく、社会常識の範囲を超える接待は受けません。
- 5. 公平かつ公正な取引
すべての調達先に対し、良識と誠実さを持って接し、公平かつ公正な取引を行います。
調達先の選定にあたっては、品質、価格、納期、技術力、供給能力などの条件に基づき、公平かつ公正に比較・評価して決定します。
- 6. 情報セキュリティの保持
調達活動において取得した機密情報および個人情報 は適正に管理します。
- 7. 調達先への期待
上記の内容については、調達先に対しても同等の配慮を期待し、サプライチェーン全体での取り組み推進に努めます。

取り組みテーマ	具体的施策	関連するSDGs
(1)持続可能な調達	調達先へのガイドラインの遵守要請	10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を